

【パソコンと私】

30年前、ワープロやパソコンを使って仕事をする環境は学校の職員室にはありませんでした。当時私もプリントを作るときは鉛筆でガリガリと原紙に向かっていたものでした。それからの技術の進歩は目ざましいものがあり、ワープロ専用機さらにはパソコンが次々と学校に入ってきました。今では教職員が仕事に使うだけでなく子どもたちが学習の道具としてパソコンを使う時代になりました。桐光学園小学校では、3年生からの総合の授業で、農園活動とパソコンを利用した活動を2本の柱としています。パソコンはインターネットが利用できることも含めて大変便利なものですが、使い方には十分に気をつけなければなりません。最近ではパソコンを使うことのよさだけでなく、それとは正反対の日々の生活や仕事への悪影響さえ論じられるようになってきました。先日ある会社ではこれまで個々が自分のパソコンを使っていたものを撤廃し、共用のパソコンを設置するようにしたことを聞きました。本来人と人が向き合って話さなければならないことをメール等のやりとりでませてしまうようなことが続いたことによる弊害を心配したことかもしれません。このようなことは、桐光学園小学校でも気をつけなければならないことであると感じました。教員同士さらには保護者と学校とのやりとりがそのようにならないようにしなければなりません。

さて、先日コンピュータ室のパソコンを新しいものに換えました。これまで使用してきたパソコンが壊れたり、性能面で活動に対応できなくなったりしてきたからです。2週間ほどコンピュータ室での活動ができなくなりましたが、今では新しいパソコンを利用して活動を再開しています。子どもたちの学校でのパソコンの利用は限られた時間だけですので、学校での活動がパソコンによって左右されることはありませんが、ご家庭ではその使用について一定の約束事も必要になってくるかもしれません。

【「する」ことを評価】

研修会で「子どもは本来機嫌がいいものである」と言われその一言にいろいろと考えさせられました。私もそうですが、人を見るときにその人が「何ができる何ができないのか」という目で見てしまうことはないでしょうか。子どもで言えば、運動ができる、勉強ができる、友だちと仲よくできるなどです。どれも大切なことであるには違いないのですが、私たちの身のまわりには「できる・できない」で評価、判断されることがあまりにも多いのではないでしょうか。そして、いつの間にか子どもたちも、自分のまわりの友だちを見る見方が「できる・できない」になっていないでしょうか。

他者から評価されるものが「できる自分、できない自分」であること知った子どもたちは「できる自分はいい自分」「できない自分は悪い自分」と考えるようになってしまふと言つても過言ではないでしょう。さて、ここで「できる、できない」を「する、しない」に言い換えると子どもたちの学校生活、家庭生活に変化は生まれないでしょうか。結果だけを見られるのではなく、「する」自分を先生も、親も、友だちも評価してくれるとしたら、それは子どもたちにとって大きな励みになるのではないでしょうか。

子どもが機嫌の悪いとき、それは自分が評価されないときや本当の自分が理解されていないと感じるときです。決して甘やかすということではなく、私たちが子どもを見る視点を変えていかないと、このままでは「機嫌のよい子」と「機嫌の悪い子」の両極端の子どもたちがどんどん増えてしまうような気がします。機嫌が悪い子に笑顔は期待できません。でも、今そうである子どもでも、「すること、していること」を評価してもらえるようになれば、笑顔を取り戻すことができるのではないかかもしれません、笑顔を取り戻した子どもがどれほど大きく成長していくかと思うとなんとなくワクワクします。

【教育の流れ】

生きる力の育成、キャリア教育の実践、英語学習など教育専門家や文部科学省からの様々な教育改革の方向性が示され、その流れが教育の現場に押し寄せてきます。総合的な学習が重要とされそれまでにあった教科の学習時間数と学習内容が削減されたかと思うと、これからは教科書の厚さが増すことからも分かるように、学習内容の増加に伴う授業時間数の確保が課題になります。キャリア教育というと、仕事など将来の自分の姿を考えることに結びつてしまいがちです。確かにそういうことを意識していくことは大切なでしょうが、小学校に求められているのは、それぞれの環境の中で生きていくときに、その時々、その場面場面で与えられた立場や役割を考え、自分らしい生き方を選択することです。日々の学校、家庭での生活においては、係、委員会、当番やお手伝いなどの活動を通して、周囲の人に積極的に関わり協力する、自分が役に立っている喜びを感じ集団の中で自己を生かすことが大切になります。

桐光学園小学校では、低学年から高学年までそれぞれの学年の子どもたちの特性に合った目標を持ち、様々な実践を通してその目標達成のために日々の活動を進めています。勉強に自信を持てるようになることが大切であることは言うまでもないことですが、他者との関わりを大切にし、自分らしい生き方を選択できるような子どもになるようにしていくことが何より必要であると考えます。